

# 令和2年度の研究 成果と課題

## 1. 本年度の取組について

研究テーマを「子どもの深い学びをめざしたつなぐ力の育成」として、子どもたちが様々な学習場面で、やり取りする中で育つ「つなぐ力」を意識し、子どもたちがどのような深い学びをしているのかについて研究を行ってきた。

その中で、本校の長年にわたる研究テーマである「子どもがつくる算数科学習」において培ってきた「ガイド学習」「ひとり学習」「言語力」などが「子どもがすすめる算数科学習」の中で重要なことは確認できた。特に「書く力」をつけることは、ガイド学習を支える大きな土台となり、「板書に残す」「自分のノートをつくる」上で欠かすことはできない。

また「教師の出場」は子どもたちがすすめる「ガイド学習」に大きく影響し、教師が出すぎてしまうと教師に頼ってしまう。「主体的・対話的で深い学び」は令和2年度から本格的に実施された新学習指導要領が求めるところでもあり、兵庫県の指導の重点の中でも「確かな学力」として挙げられている。学習の中心は子どもたちであり、「子どもがつくる算数科学習」を通して、自分たちですすめる楽しさや自信、誇りを持って進んでいってほしいと考えている。

各学年で「つなぐ力」を意識した取組を行うことは、算数の学習はもとより、他の教科の学習においてもつなぐ意識が芽生え、それは子どもたちの思考力、判断力、表現力の向上に結びついていると感じている。

現代は知識基盤社会と言われ、子どもたちの周りには多くの情報が溢れている。その情報を正しく読み取り、そして活用していくには、このような学習を続けることがとても有効だと考える。ある卒業生の保護者方から言われたことがある。「大人になって改めて母子小学校のガイド学習のよさが分かった」と。大人になっても自信を持って人前で話をしたり説明したりすることができたなどの声を聞くと、改めてガイド学習のよさを感じる。

しかしながら、この取組で満足するのではなく教師のどのような「評価と支援」によって、子どもたちが深い学びをするのかについて以下の点について考えていき、次年度以降取組んでいきたい。

- ・教材研究では学習の山場を設定し、子どもの深い学びとなるような仕かけや予想される「おたずね」について考え、授業を組み立てていく。
- ・子どもたちの深い学びの場面について、「教師の出場」など実際の場面を出し合い、研修する中で深い学びについて共通理解を深める。
- ・新学習指導要領や兵庫の指導の重点2020の内容と本校の学びを照らし合わせ、「主体的で対話的で深い学び」「書く力」など足りない部分や新たな部分を付け加えていく。

子どもたちがいかに主体的で、そして、深い学びをするのかについては今後も研究を深め、よりよいものになるように常に「子どもがすすめる」ことを意識して取り組んでいきたい。